

**V-Low マルチメディア放送  
に対する  
文化放送の考え方**

**2011年8月8日**

**株式会社文化放送**

## 〔文化放送の V-Low マルチメディア放送に対する考え方〕

文化放送は、V-Low マルチメディア放送は 1 セグメント方式を基本に、音声中心の多 ch サービスを主体としたメディアにすべきと考える。

主な理由

- ① 多様化したライフスタイルに、音声メディアとして順応するため。
- ② 低コストで放送可能な音声メディアは、多 ch に適したメディアである。
- ③ 多 ch ≒ 専門 ch であり、価値観を共有するリスナーはレレバンシーが高く、パイは小さくとも堅実なビジネスが成立する。

## 〔文化放送の基本方針〕

受託事業者に応分の出資（関東広域 1 ㍻分）をし、委託事業者として 1 セグメントで新規サービス 2 ch（動画付き A&G ch、音声放送 1 ch およびデータ放送）、音声優先セグメントでサイマル放送を行なう（ことを希望）。

ただし、上記基本方針は、

- ① NHK の参入
- ② 受託事業者の信頼性、経営能力および帯域使用料金の額
- ③ V-Low 帯の位置づけ、制度内容
- ④ 3 ㍻か 1 ㍻か、ファイルキャスト中心か音声 ch 中心かなど V-Low 帯のサービス特性
- ⑤ 端末の仕様、形態 etc

を勘案して最終的に決定する。

## 〔具体的なサービスイメージ〕

別紙資料参照

## 〔希望セグメント数〕

1 セグメント（新規サービス） + 1/5 セグメント（サイマル放送）

## 〔ソフトへの参加主体〕

株式会社文化放送。

## 〔プラットフォームの機能・主体〕

EPG やエンジニアリングサービスなど、各社共通の付加サービスを提供する設備を受託放送事業者が保有、運用するのは効率的であると思うが、一部の委託放送事業者しか使用しない設備を受託放送事業者が保有、運用することは使用料の高騰を招来しかねないと考える。

受託放送事業者は、全委託放送事業者が使用する共通事業基盤と、課金システムなど一部の委託事業者が使用するオプション的な事業基盤と、切り分けて保有し、運用すべきであると考えます。

# 文化放送が想定する V-Lowマルチメディア放送 サービス概要



2011年8月8日  
株式会社文化放送

## V-Lowマルチメディア放送でのサービスについて

文化放送は、地上デジタル音声放送実用化試験局で得たノウハウをもとに、V-Lowマルチメディア放送において、中波放送のサイマル放送に加えて、1セグメントを使った新規サービス(ch)を計画しています。  
なお、いずれの放送(ch)も広告モデルの無料放送であり、有料・課金サービスは通信と連携して行うことを想定しています。

### □ 一般セグメントで

#### ➤ 超!A&G+



関東広域向け(映像、音声、データ、通信リンク、ダウンロードサービス)

#### ➤ Quality Radio

関東広域向け(音声、データサービス)

の2chを1セグメントの帯域で放送

### □ 音声優先セグメントで

#### ➤ 文化放送プラス



(AM1134文化放送のサイマル放送)

関東広域向け(音声、データサービス)

を1/5セグメントの帯域で放送

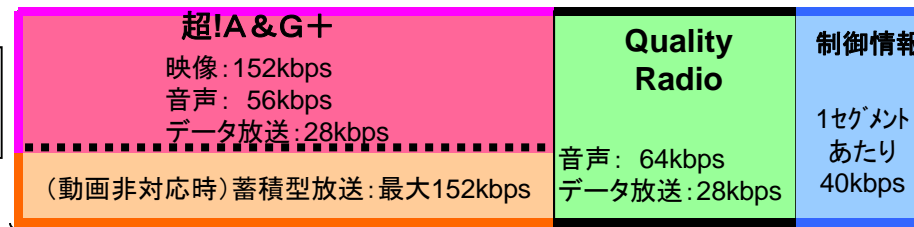


# 文化放送が想定する新規1セグメント内サービス内容

\* QPSK2/3 ガードインターバル1/4としたときの1セグメントトータルでの、伝送レートを374kbpsと想定

チャンネル名	使用帯域幅	コンテンツ	ビジネス
超！A&G+ (無料放送)	映像 152kbps 音声 56kbps	アニメ関連、ゲーム関連の生番組、ハコ番組を原則動画にて放送	広告、番組関連グッズ、番組関連アプリ、A&Gキャラクターグッズ、番組関連有料イベント、通信連携有料コンテンツほか
	データ 28kbps	番組表、番組関連情報(NOAほか)や一次リンク(ショップサイトほか))を放送	
Quality Radio (無料放送)	音声 64kbps	J-POP、AOR、Smooth Jazz、Soft Rockなど洋邦の良質な楽曲と最新ニュースを中心とした国内外の上質な情報をリアルタイムで放送	広告(クーポン等含む)、アフィリエイト
	データ 28kbps	番組表、番組関連情報(NOAほか)ニュース、天気予報ほか最新生活関連情報を常時表示	
蓄積型放送	152kbps (動画非対応枠等を使用)	電子マガジン、電子コミック、電子書籍電子チラシ、クーポン、アニメ、ゲーム	動画非対応時の空き帯域を使い、左記の有料コンテンツを放送波で伝送。課金認証は通信。
制御情報	40kbps	PI(プログラム・インフォメーション)、PSI(プログラム・サービス・インフォメーション) ES(エンジニアリング・サービス) など	

1セグメントの  
帯域使用例の図示



# 文化放送が想定する新規1セグメント～災害発生時の対応～

\* QPSK2/3 ガードインターバル1/4としたときの1セグメントトータルでの、伝送レートを374kbpsと想定

チャンネル名	使用帯域幅	
超!A&G+	映像 kbps 音声 kbps データ kbps	災害放送の帯域として振替
Quality Radio →災害放送	音声 64kbps	災害特別放送の実施 (二次災害防止のための具体的指示、被害の全体像、道路・鉄道情報、ライフライン情報、記者による現場レポート、被災住民の声、提携クリーニング店からの情報 ほか)
	データ 264kbps	避難勧告・指示情報、避難所情報、災害対策実施本部設置状況、被害情報 気象情報・注意報、土砂災害警戒情報、洪水情報、電気ガスの状況、交通機関の状況 ほか
蓄積型放送	kbps	災害放送の帯域として振替
制御情報	約40kbps	PI(プログラム・インフォメーション)、 PSI(プログラム・サービス・インフォメーション) ES(エンジニアリング・サービス) など

1セグメントの  
帯域使用例の図示



1セグメント 374kbps